

東京剣連だより

Tokyo Kendo Federation News



第99号



第44回東京都女子剣道選手権大会試合



第32回東京都女子居合道大会審判会議



東京都杖道大会二段の部試合

年頭ご挨拶	千葉胤道	1
東京都の女子居合道の発展について	伊藤繁男	3
私立晃華学園中学高等学校居合道同好会の活動	市川 学	4
令和8年年頭に当ってのご挨拶	小林正明	5
剣道におけるハラスメントの防止に向けて	佐藤穂貴	7
令和8年度事業計画		8
大会記録・報告		9
審査会報告		19
麻醉のお話し(2)	荻原幸彦	23
女子大会の拡大開催	柳 徹	26
初の杖道団体戦への挑戦	近藤 卓	26
支部活動報告		27



年頭ご挨拶

一般財団法人東京都剣道連盟

会長 千葉 胤道

新年あけましておめでとうございます。東京都の剣道人の皆様におかれましては、ご健勝にて良き新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年はロシアによるウクライナ侵略が3年に及び、係争のさらなる長期化は避けられない情勢となっています。パレスチナ自治区ガザ地区を巡るイスラム主義組織ハマスとイスラエルとの紛争は2年が経過、崩壊と人道危機が深刻化した非常事態に国際社会が注目しました。10月に双方が停戦案に合意しましたが恒久的な平和に結びつくことを願っています。南シナ海スプラトリー諸島などでは中国が周辺国との海洋権益を巡り、威圧的行動によって海洋進出を強めるなど国際紛争が起きました。

経済関係では米国第2次トランプ政権発足後「米国第一主義」の下で乱発された高関税政策に日本をはじめとする自由貿易を守る意志のある国や地域が経済対策でもって対処しました。

こうした国際情勢のなか、国内では8月上旬から青森県から鹿児島までの12県が記録的な大雨による建物の崩壊や浸水等の甚大な被害を受けました。東京都においても局地的な猛烈な雨が降り、川が氾濫するなどして多くの住宅や店舗で床上浸水する被害がありました。

東京都では浸水被害を除いては比較的平穏に一年が過ぎましたこ

とに安堵しております。

昨年の行事を振り返りますと、令和7年度最初の事業である「第65回東京剣道祭」が4月6日に東京武道館で開催されました。この剣道祭は「私達剣道人が平素の修練の成果をお互いに確かめ合う機会であり、交流を深める場でもある」としています。出場者は1都1府9県から1132名の剣士が集い、範士八段21名、教士八段113名、「生涯剣道の実践者である」75歳以上の高齢者の部では102名の参加がありました。

また、毎年実施しております好評の「東京都ジュニア選手・育成強化事業剣道基本教室」を中央区総合スポーツセンターで8月4日開催したところ、小学生剣士188名の参加がありました。講師は今年度も世界剣道選手権大会、全日本剣道選手権大会優勝経験者をはじめとする有名選手の宮本敬太、星子啓太、大平翔士、近藤美洸、佐藤みのりの各先生に委嘱し、ご指導をいただきました。宮本講師による剣道の基礎的な講話が始まり、その後、実技講習を行いました。終了後、参加者には恒例となりました講師のサイン入り色紙と本連盟手拭いを贈り、講師との記念撮影も行い、心に残る楽しい一日でありました。

9月6日、東京武道館にて、午前に「東京都剣道選手権大会」が、午後は三笠宮瑤子女王殿下のご臨席を仰ぎ「寛仁親王杯第25回剣道

八段選抜大会」が開催され、1都8県から63歳以下の剣道八段位32名が出場し、高い水準の剣技による試合が行われ、観戦者を魅了しました。9月14日には「第32回東京都女子居合道大会」が東京武道館において、東京、北海道、宮城、新潟、富山、石川、長野、群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、山梨、神奈川、静岡、岐阜、愛知、三重の1都1道16県から370名（内小学生3名を含む）の女性居合道人の参加を得て盛大に開催されました。この大会は審判長、副審判長、審判員、係員そして役員が全て女性で構成されており、他に類をみないことを記しておきます。

全国大会関係では4月29日に和歌山県で第73回全日本都道府県対抗剣道優勝大会が開催されました。東京都は連覇を目指し出場しましたが、準決勝戦で千葉県に惜敗し三位となりました。第79回国民スポーツ大会剣道大会「わたSHIGA輝く国スポ」が9月29日から10月1日まで滋賀県湖南市において開催され、総合開会式では宮本敬太選手（警視庁）が東京都選手団の旗手を、天皇杯返還は岡本和明選手（警視庁）が務めました。剣道大会には成年男子、女子、少年男子、女子の全種目に出場しましたが、戦績は「少年女子」が第3位、「少年男子」第5位、「成年女子」第4位、「成年男子」は決勝戦で滋賀県に敗れ第2位でした。総合成績では女子総合で第4位、男女総合成績は第2位となりました。11月3日には第73回全日本剣道選手権大会が日本武道館で行われ、星子啓太選手（警視庁）が4大会ぶり2度目の優勝を果たしました。

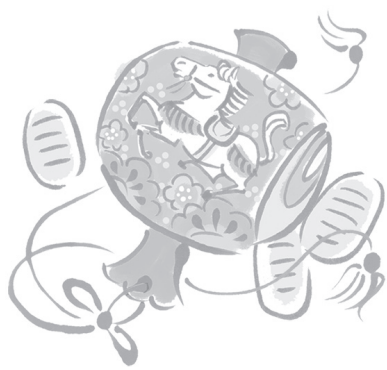
その一方で、スポーツ界では指導における体罰や暴力、暴言、ハラスメントがマスコミに取り上げられ、問題点が指摘されました。本連盟は剣道指導を含め社会から疑惑や不信を招かないためにも、昨年度同様に全ての剣道、居合道、杖道講習会においてガバナンスの確保、コンプライアンスの強化を目的とした倫理委員による「倫理に関する講話」を取り入れて周知徹底しました。また、東京都は女性剣士の層も厚く令和3年に女性委員会を発足しました。幼少年

の剣道指導には多くの女性剣士が関わっていますが、吉岡成子委員長が中心となって女性への剣道普及、女性指導者の育成を目指して、日本剣道形、審判法、指導法講習会、女子稽古会を企画・立案し実施しました。

今年に目を向けますと、5月には第1回アジア・オセアニア剣道選手権大会（IAOKC）が東京武道館にて開催が予定されています。全日本剣道連盟（AJKF）が大会主管となり運営しますので、本連盟は大会成功に向けて一体となって協力して参ります。

また、昨今、教員の働き方改革や少子化を背景とした公立中学校剣道部活動の維持が難しくなり、地域移行が現実となってきました。今後における普及の一環として地域の剣道場、剣道クラブが受け皿として活動する段階的取り組みを行わなければなりません。東京都中学校体育連盟剣道部と問題点を洗い出し、本連盟の予定される立ち位置を検討し、具体化したいと考えています。

年頭に当たり、本連盟は引き続き剣道の原点に基づき、生涯にわたって楽しめる剣道、居合道、杖道の三道を目指し、剣道界の範となる活動の拡大に努めて参りますので、所属団体の皆様をはじめ、各方面からのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。結びに、本年も実り多い素晴らしい年となりますことを祈念して年頭の挨拶といたします。





東京都の女子居合道の 発展について

～年頭ご挨拶に代えて～

居合道部会

会長 伊藤 繁男

全日本剣道連盟に加盟する47都道府県剣道連盟居合道部会の中で、唯一無二の行事が東京都剣道連盟居合道部会にはあります。今回で32回となる東京都女子居合道大会の開催です。本大会の特筆すべき事は、主たる役員を除いて、全ての大会委員と係員が女性会員のみで、今回まで実施されてきた事です。

平成6年春の居合道部会理事会で、中倉清範士からの「東京ならば、女性会員による大会が開けるのではないか」という提案から、部会行事として決し、平成6年7月31日(日曜日)、築地市場厚生会館体育館にて、第1回女子居合道錬成大会として開催されました。大会会長には提案者である中倉範士を戴き、委員長は関根峰子範士、大会委員・審判員は鈴木末子・遠藤智恵子・畠中篤美・山田加葉・土田絹子教士とし、参加女性会員123名(無段11名・初段29名・二段20名・三段22名・四段13名・五段14名・六段8名・七段6名)による大会でした。

以降、東京独自の大会として、事前に審判講習会を実施するなどして経験値が少ない会員の審判技術の向上を図りつつ、大会運営の経験を積み重ね、第30回という節目の令和5年度大会において参加枠を関東甲信越地区(1都9県)に広げました。これは、居合道の発展には女性会員の増加が必須であると考えて女子大会開催を企画した、当時の役員の方々の「大会を全国規模に広め、居合道興隆の一助に」という30年来の思いに応えた結果であります。



第32回東京都女子居合道大会より

そして、大会参加枠が関東甲信越地区に広がると、交流のある他県女性会員からの参加を望む声が多くなり、要望に応える形で、本年の第32回大会では、東日本地区(1都1道16県)の参加者を東京武道館に迎え、過去最大規模の大会を開催するに至りました。

居合道部会としては、昨今の居合道界の状況や東京都女子居合道大会のこれまで果たした実績と及ぼす影響を踏まえて、本大会を重要な部会事業の一つとして捉えています。先人の意思を継いで、全国の範となるような大会とすべく、会員一同研鑽して参りますので、皆様にはこれまでと同様に、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

私立晃華学園中学高等学校 居合道同好会の活動

居合道教士八段 市川 学

東京都調布市にあるカトリック系の女子校・晃華学園中学高等学校では、袴姿に模擬刀を携えた生徒達の居合道同好会の活動は日常風景になっています。

1989年、私が美術教師として働いていた縁で生徒達に請われて創立しました。今年で36年が経ち会員は現在39名が所属し、教士七段の卒業生を含むコーチ3名が指導しています。

高校2年生が幹部学年で会長・副会長の他に通常、メニュー係という基本稽古の研究と解説をつけて指示をする係があります。まず基本稽古から始め、その後、全日本剣道連盟居合、古流である夢想神伝流居合を稽古しています。

大会としては、関東甲信越居合道大会、東京都居合道大会、東京都女子居合道大会、多摩西地区、八王子市などの地域の大会に出場しています。

校内では、新歓演武会、文化祭演武会、校内大会（学杯）、夏季合宿（菅平に於いて3泊4日間）、引退演武会等を行っています。稽古日は月・水・土曜日の放課後、朝練は毎日開放稽古となっています。

東京都剣道連盟居合道部会では、多摩中央地区・立川支部に所属し、昇級昇段審査、各大会、地区講習会等に参加申し込みをして稽古に励んでいます。





令和8年年頭に当ってのご挨拶

杖道部会

会長 小林 正明

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

午年は、情熱と行動力が生まれる「飛躍の年」とされており、優れた武道である杖道に關しても、多くの皆様方と力を合わせ、明るく前向きな取組を進めてまいりたいと存じます。

さて、昨年は40度に迫る猛暑の夏を経験し、錦秋を楽しむ暇もなく冬に突入したように感じられます。日本には、慈雨、薫風など季節を彩る様々な言葉がありますが、気象条件が急速に変わり四季を愛でる機会が減ってきているのではないかと危惧されます。私達は、天の恵み、地の豊かさを享受し感謝して、この一年も送ってまいりたいと思いますが、歴史上なかったような集中豪雨、巨大広範な台風、最近では竜巻を含む強風や落雷、これらに起因する山火事などにも警戒を怠ることはできません。

地球全体の変動や自然の持つ大きな力に対して謙虚である一方、私達がたしなむ武道が、日頃からの健康づくりであり、日本の床しい文化の継承であるとともに、非日常への身心の備えでもあることを一段と自覚してまいりたいと思います。

昨年の杖道部会の活動を振り返りますと、会員数は約七百名を数え、コロナ禍の中での減少から漸く増加する傾向にあると思います。とはいえ、それ以前の八百数十人にまでは戻しておらず、先ずは完全な復活を遂げ、さらなる同好の士の増加を目指したいと思ひます。杖道は、まだその存在をご存じない方が圧倒的に多

いため、先ずは認識していただく機会を増やし、関心を持っていた方々との出会いを実現してまいりたいと思ひます。

昨年は、東京都杖道大会で団体戦を初めて本格的に行ったことは特筆に値いたします。ご存じの方には今更なようですが、杖道では、個人戦も実は打太刀と仕杖のペアが一組で、ペア同志が技の形を競い合います。つまり杖道の稽古は、杖の稽古であり、同時に太刀の稽古でもあつて、全日本剣道連盟の三道の一角を担っております。そんな中で、団体戦は、杖を主体として、先鋒、中堅、大将が判定の対象として登場し、原則一人の打太刀が相手を行います。先鋒は三段以下、中堅は四段以下、大将は五段以下とし、打太刀は評価しません。六段以下としました。古来杖術では、太刀が杖を育てる師の位とされてきたことも合致したルールとなっております。

さて、第一回目の団体戦には、40余の傘下団体から、複数派遣を含む32団体の参加登録があり熱戦を繰り広げました。団体対抗で盛り上がったことも成果ですが、従来出場に縁遠かった方もチームの一員として参加するなど、参加者拡大の効果があつました。今年は剣道界にとってアジア、太平洋、更には世界全体への発展を進める重要な年でありますが、杖道団体戦には海外の取組も活発と聞いており、今後の様々な展開が期待できます。

東京都杖道大会は、昨年37回目を迎えました。同時開催している東京杖道祭も26回を数えました。ここでは、全日本剣道連盟杖道の源流である古流杖術や併伝武





術とされる剣術、十手、鎖鎌や短杖の演武を披露しており、杖道の奥深さや魅力に触れていただくよい機会として力を入れています。

以上の取組のご報告の中でも触れてまいりました杖道の特性やアピールポイントについて、改めて考えてみたいと思います。

杖道における相手との対峙は、片や太刀を持ち、片や杖を持っている異種格闘技となっています。そして稽古でも、大会や昇段審査などの演武においても、途中で太刀と杖が役割を交代する「仕打交代」を伴うことが大半です。全員が、大谷翔平選手のような二役を担うと言ってもよいでしょうか、異なる二つを修得する困難さはありますが、役割を交代することで相手の技の意図や効果を実感できるといった側面もあります。

さて、このペアの相手ですが、杖道では誰と組くんでもよく、つまり女性ペア、男性ペア、男女ペアのいずれもが可能です。大会で二つのペアが演武を競い合うときに、男性ペア同士も女性ペア同士もあり、女性ペア vs 男性ペアも、男性ペア vs 男女ペアも、あらゆる組合せが同じ土俵で競い合うことがあります。実際に、女性ペアが男性ペアに勝つことも決して珍しいことではなく、男女ペアが普通にあるためにご夫婦のペアがこれまた珍しいものではないことも、杖道の特徴であり魅力であると思います。

こうしたことは杖道の技が、力や体格に頼るものではなく、その正確さやキレによって発揮されることを示していると考えられます。これは男女差にのみ当てはまることではなく、年齢差や体格差にも同様のことがいえるように思います。ご高齢で杖道に取り組まれる方も多く、中には90歳を越えて昇段審査や大会に臨む人生の先

輩方がおられ、尊敬の念を禁じ得ません。

若い同好者や大学での部活動としての取組も有望で大変楽しみなものです。かつて大学対抗戦なども実施されましたが、はつらつとした若者の杖道にも大いなる魅力があります。もっと若い年齢層、お子さんの杖道への参加についても近年手応えを感じる催しがあります。子どもを中心とした初めての武道体験を目的に、体育の日に1回20人程度のグループへの説明と短くした杖での体験を数回開催し、新鮮な子ども達の反応が印象的だった、との報告がありました。先入観のないお子さんの反応に、教える側も学ぶことが多いのも素晴らしいことと感じます。

実は、杖道が健常な方々の健康法として優れているのみならず、障害があつたり傷病からの回復に努めている方々のリハビリに有効ではないか、とのお声をよく聞くようになりました。私達が杖道で使う武器としての杖は、長さ4尺2寸1分（128cm）太さ8分（2.4cm）の白樫の棒で、普段の稽古も防具は着けず道着と袴で行っています。杖の構造は単純で手の中で多様な扱いをします。決まった握りがあるわけではなく、時に杖全体を両手一杯に持ったり、滑らせて手幅を縮めたり変化しますし、打ったり突いたりを右からでも左からでも繰り出す自由さが特徴で、リハビリなどには合致するのかも知れません。

こうした広い間口を持つ杖道を、多くの方々に知っていただきたい経験していただけるよう、工夫を凝らし取り組んでまいります。性別、年齢、体格などを超え、更には健康の増進や維持のみならず、回復やリハビリにもお役に立てることを期待しております。

結びに、皆様方にとって、今年が平和で充実した年となりますようお祈りいたします。

また、杖道が様々な形で社会に貢献できる道が開かれることを心より願っております。



剣道におけるハラスメントの防止に向けて

一般財団法人東京都剣道連盟 倫理委員 佐藤 穂貴

はじめに 「パワハラ」、「セクハラ」といった言葉をよく耳にするようになり久しく、最近では「カスハラ」という言葉も登場し、ハラスメントの被害は社会問題化しています。残念ながら剣道界も例外ではありません。本誌前号でも都内で年初に発生した暴力、パワハラ的事例報告及び対応措置等が当連盟太田文雄倫理委員長より紹介されたところです。2020年東京オリンピックの開催を契機にスポーツ界における不祥事の発生防止策の構築が進んだところで、なぜハラスメントの問題が後を絶たないのか、いかに予防・対応することが望まれるか本稿で述べたいと思います。

ハラスメントの原因 ハラスメントは、当事者の立場の違いに起因して発生します。剣道の場合、指導者と受講者の立場の差が明確なことが多く、パワハラ要素である優越的な関係を背景にした言動がなされやすい環境があります。また指導上の身体接触がセクハラ要素である性的な言動に発展しやすい素地もあります。これらの言動が社会的な相当性を欠きそれにより相手に身体的精神的苦痛を与えてしまうとパワハラ、セクハラとなり得ます。

ハラスメントの予防 そのため剣道の稽古や大会、組織運営においても、行き過ぎた言動はハラスメント認定されやすいものであると常日頃認識することが大切です。稽古や大会の開催には公共施設を用いることが多く、それを支える方々には普段剣道との関わりが少ない多様な人がいます。そのため稽古場での常識が一般社会の常

識とずれているおそれがあること、それが相当性を欠いた言動になり得ることを指導者は意識する必要があります。日本文化伝承の面からも、剣道が子どもでも大人でも参加しやすい競技であることを示していただければと思います。さらにハラスメント防止には組織で取り組むことも重要です。東京都剣道連盟では全剣連に倣い倫理規程、倫理に関するガイドラインおよび綱紀規程を制定しています。各地域や職域の連盟においても同様の手続を整備したり、会員向けにハラスメント防止講習会を開催したりして予防に努めていただきたく思います。全剣連が令和7年6月に公表したリーフレットもご活用ください。

ハラスメントへの対応 予防策を尽くしても問題が起きてしまった場合は被害者を保護しつつ、適正手続に則って調査・対処することが必要です。カスハラに対しては不当要求に屈しない毅然とした対応が望まれます。全剣連や東剣連には苦情相談窓口がありそれらを利用いただくことも可能です。個別事案の解明には関係者からの聴き取りが不可欠で、地域等の連盟の協力が欠かせません。各連盟で指導や運営に携わる皆様には日ごろから稽古環境を気かけ風通しを良くし連携して対応いただければと思います。

ハラスメント防止の第一歩は相手に対する配慮です。自身や仲間らと楽しく継続できる剣道環境を整えていただければと思います。

令和八年度事業計画表

会場、東京武道館

無印(午前・午後)

○(午前) △(午後) □(夜間)

【4月】

○4日(土) 女子剣道審判講習会

△4日(土) 女子剣道稽古会

4日(土) 東京都居合道大会

5日(日) 東京剣道祭

□9日(木) 居合道合同稽古会

18日(土) 剣道四・五段審査会

19日(日) 国民スポーツ大会選手選考会

□19日(日) 剣道合同稽古会

□23日(木) 杖道合同稽古会

【5月】

○10日(日) 東京都スポーツ大会

△10日(日) 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

予選会

□14日(木) 居合道合同稽古会

□17日(日) 剣道合同稽古会

□17日(日) 剣道高段者稽古会

△22日(金) 国民スポーツ大会選手選考会(最終)

23日(土) 東京都女子年齢別剣道大会

□28日(木) 杖道合同稽古会

【6月】

□4日(木) 居合道合同稽古会

□14日(日) 剣道合同稽古会

【7月】

4日(土) 全日本都道府県対抗少年大会

選手選考会

○4日(土) 女子剣道稽古会

11日(土) 全日本居合道大会予選会

○11日(土) 剣道六・七段受審者講習会

△11日(土) 登録審査要員等研修会

18日(土) 東京都杖道大会・東京杖道祭

△20日(月・祝) 女子剣道講習会

□23日(木) 居合道合同稽古会

【8月】

○1日(土) 剣道四・五段受審者講習会

△1日(土) 登録審査要員等研修会

15日(土) 居合道伝達講習会

□27日(木) 居合道合同稽古会

□31日(月) 剣道合同稽古会

【9月】

○5日(土) 東京都剣道選手権大会

△5日(土) 寛仁親王杯剣道八段選抜大会

○6日(日) 東京都青年剣道大会

△6日(日) スポーツフェスティバル東京

□10日(木) 杖道合同稽古会

12日(土) 東京都女子剣道選手権大会

13日(日) 東京都女子居合道大会

□13日(日) 剣道合同稽古会

□17日(木) 居合道合同稽古会

19日(土) 女子剣道稽古会

21日(月・祝) 剣道八段受審者講習会

22日(火・祝) 杖道指導者審判講習会

27日(日) 居合道五段以下審査会

【10月】

4日(日) 杖道五段以下審査会

□15日(木) 居合道合同稽古会

□18日(日) 剣道合同稽古会

29日(木) シニアスポーツフェスティバル

【11月】

□9日(月) 剣道合同稽古会

□12日(木) 居合道合同稽古会

□26日(木) 杖道合同稽古会

28日(土) 剣道四・五段審査会

【12月】

□6日(日) 剣道合同稽古会

□10日(木) 居合道合同稽古会

19日(土) 東京都形剣道大会

□19日(土) 剣道合同稽古会

令和九年

【1月】

9日(土) 関東甲信越居合道大会

□14日(木) 居合道合同稽古会

□21日(木) 杖道合同稽古会

□25日(月) 剣道合同稽古会

【2月】

13日(土) 杖道指導者審判講習会

21日(日) 全日本都道府県対抗剣道優勝大会予選会(新宿スポーツセンター)

△21日(日) 女子剣道稽古会

(新宿スポーツセンター)

23日(火・祝) 剣道四・五段審査会

□23日(火・祝) 剣道合同稽古会

□23日(火・祝) 剣道高段者稽古会

□25日(木) 居合道合同稽古会

27日(土) 東京都剣道大会

28日(日) 剣道八段受審者講習会

【3月】

□4日(木) 杖道合同稽古会

7日(日) 居合道八段受審者講習会

13日(土) 杖道五段以下審査会

□18日(木) 居合道合同稽古会

20日(土) 居合道四・五段審査会

21日(日・祝) 東京都少年剣道大会

□21日(日・祝) 剣道合同稽古会

日程未定事業

剣道講師要員研究会

居合道登録審査員研修会

※詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

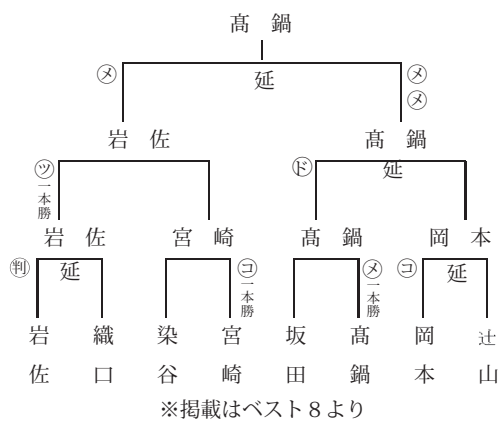
なお、会場の都合で日程を変更する場合がありますのでご了承下さい。

大会記録

寛仁親王杯第二十五回剣道八段選抜大会
令和7年9月6日

優勝 高鍋 進 (神奈川)
準優勝 岩佐 英範 (警視庁)
第三位 宮崎 史裕 (神奈川)
第三位 岡本 和明 (警視庁)
優秀試合者賞 織口 剛次 (神奈川)
優秀試合者賞 染谷 恒治 (千葉)
優秀試合者賞 坂田 敏郎 (警視庁)
優秀試合者賞 辻山 和良 (神奈川)

於 東京武道館



寛仁親王杯第25回剣道八段選抜大会試合

第二十回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会選手選考会
令和7年7月5日

於 東京武道館

小学生の部

監督 権瓶 功泰
先鋒 小野田孝良 (板橋区)
次鋒 藤 悠莉 (板橋区)
中堅 沖山 丈 (江東区)
副将 権瓶美咲子 (板橋区)
大将 鈴木 瑛斗 (江東区)
中学生の部
監督 木村 孝治
先鋒 大山 零 (中体連)



第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会選手選考会
役員、監督、小学生の部代表選手



第20回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会
選手選考会試合

第六十回全日本居合道大会予選会
令和7年7月19日

於 東京武道館

次鋒 橋口実生珠 (中体連)
中堅 宮林 優慎 (中体連)
副将 石倉 政嗣 (中体連)
大将 山崎 律 (中体連)
五段の部
優勝 福永 靖史 (板橋)
六段の部
優勝 滝澤 貴典 (警視庁)
七段の部
優勝 吉田 真澄 (文京)



第60回全日本居合道大会予選会
役員、各部門優勝者

第三十七回東京都杖道大会

第二十六回東京杖道祭

令和7年7月19日

於 東京武道館

一級以下の部

優 勝 安則 京子 (紘武館道場)

高橋 英亘 (紘武館道場)

準優勝 藤沢ひかり (国士舘大学武芸道会)

山谷 晴代 (日本古武藝杖道会)

初段の部

優 勝 仲山 有美 (戸塚杖道クラブ)

西浦 誠 (武光塾杖道会)

準優勝 石田 広記 (日本武道館杖道教室)

石川 定夫 (千葉県剣連)

二段の部

優 勝 近藤 卓 (日本武道館杖道教室)

村上 綾菜 (日本武道館杖道教室)

準優勝 尾辻 瑞人 (日本武道館杖道教室)

尾辻久美子 (日本武道館杖道教室)

三段の部

優 勝 湯川進太郎 (白鷗大学杖道会)

服部 明 (杖心会)

準優勝 川越 伸二 (警視庁)

東原 竜司 (警視庁)

四段の部

優 勝 石橋 陽平 (警視庁)

石井 良三 (警視庁)

準優勝 石濱 和哉 (警視庁)

川邊正太郎 (警視庁)

五段の部

優 勝 関塚 直貴 (警視庁)

中川 修 (警視庁)

準優勝 西田 祐子 (蔵修館杖道会)

篠 隆弘 (多摩杖道会)

六段の部

優 勝 日高 昭仁 (警視庁)

谷 賢一郎 (警視庁)

準優勝 福見 健治 (武光塾杖道会)

太田 修司 (戸塚杖道クラブ)

七段の部

優 勝 笠原 忠幸 (警視庁)

高鷲 強 (警視庁)

準優勝 田中慎一郎 (府中杖道会)

河村 豪祐 (小金井杖道会)

団体戦の部

優 勝 日本武道館杖道教室 A

準優勝 警視庁 A

東京武道館で7月19日に行われた第37回東京都杖道大会は、何としても杖道の魅力を会員の皆さんが一層深く実感するその方法の一つとして念願であった初の団体戦を企画して実施しました。

限られた時間の中で3人制32チームの試合進行を整えるためには、何といても審判員と係員が一体となり先読みした適切な対応が必須でした。

4会場で同時に開始した試合は、先鋒三段以下、中堅四段以下、大將は五段以下で、その3選手の元立を務める打太刀は六段以下、それに団体戦の魅力であるチームワークを高める目的で監督も置きました。

自身の名誉は勿論のこと、所属するチーム(支部)のために精一杯の演武する選手たちの姿には、見ていて感激の一瞬が随所でみられました。個人戦しか経験したことのない選手たちも団体戦の楽しさを大いに感じたことと思います。

決勝戦は警視庁A対日本武道館武道学園Aの対戦となり、双方若さで勢いの接戦が展開され僅差で武道学園が初の優勝チームとなりました。大会成功のために2回実施した審判・係員の事前研修会を真剣に取り組んだ成果が多いに発揮された結果となりました。



団体戦整列

第六十四回東京都剣道選手権大会

令和7年9月6日

於 東京武道館

優 勝 星子 啓太 (警視庁)

第二位 椋梨 昂竜 (警視庁)

第三位 阿比留宏貴 (江東)

加納 彰大 (警視庁)



第64回東京都剣道選手権大会試合

令和7年度東京都青年剣道大会

令和7年9月7日

於 東京武道館

男子の部

優 勝 品川 区

第二位 板橋 区

第三位 武蔵野 市

府中 市

女子の部

優 勝 大田 区

第二位 八王子 市



令和7年東京都青年剣道大会
女子優勝チーム大田区



令和7年東京都青年剣道大会
男子優勝チーム品川区

第三位 足立区
第三位 国分寺市

優勝 佐藤みのり (警視庁)
第二位 笠日向子 (警視庁)
第三位 表ちさと (警視庁)
第三位 上杉奈々 (警視庁)

第四十四回東京都女子剣道選手権大会
令和7年9月13日 於 東京武道館



令和7年度スポーツフェスティバル東京
優勝チーム青森市

優勝 青森市
第二位 葛飾区
第三位 国分寺市
第三位 大田区

令和7年度スポーツフェスティバル東京
令和7年9月7日 於 東京武道館



第44回東京都女子剣道選手権大会入賞者



第44回東京都女子剣道選手権大会開会式



第32回東京都女子居合道大会
大会試合段外の部ベスト8

第三十二回東京都女子居合道大会
令和7年9月14日 於 東京武道館

段外の部
優勝 後藤 瑠璃 (渋谷)
準優勝 相場美知香 (新潟)
第三位 中谷 瑠那 (世田谷)
第三位 窪田 彩花 (中央)

初段の部
優勝 高橋那奈羽 (新宿)
準優勝 浜崎 葵 (神奈川)
第三位 古川珠和衣 (新宿)
第三位 塚田 万結 (渋谷)

二段の部
優勝 横山 心音 (中央)
準優勝 神谷陽菜乃 (千代田)
第三位 村尻 澄麗 (神奈川)
第三位 小林 桃子 (中央)

三段の部
優勝 嶋永 朱里 (神奈川)
準優勝 尾崎うさこ (中央)
第三位 寺沢 詔 (板橋)
第三位 井田明日香 (愛知)



第32回東京都女子居合道大会
試合段外の部準決勝より

四段の部

優勝 倉地 伊吹(群馬)

準優勝 陸井 美輝(神奈川)

第三位 赤井澤保美(宮城)

第三位 岩瀬 彩郁(世田谷)

五段の部

優勝 伊奈 幸子(静岡)

準優勝 池浦 一葉(神奈川)

第三位 中谷 真衣(新宿)

第三位 長野 明子(神奈川)

六段の部

優勝 後藤 知佳(神奈川)

準優勝 塩谷 紀子(神奈川)

第三位 上田沙央里(立川)

第三位 酒井 裕子(千葉)

奨励賞

山田 優和(江戸川)

浅野すみれ(愛知)

相場美知香(新潟)

山田 奈々(江戸川)

第三十回 TOKYO 緑ジョイ！

シニア健康スポーツフェスティバル

令和7年10月30日

於 東京武道館

女子の部

優勝 野崎 由起子(西東京市)

第二位 濱崎 泉(板橋区)

第三位 大木 清美(品川区)

第三位 齊藤 美希(荒川区)

男子の部

五十九歳～六十四歳の部

優勝 小坂 和弘(東村山市)

第二位 小野間 弘(あきる野市)

第三位 坂東 康弘(台東区)

第三位 大竹 聡夫(清瀬市)

六十五歳～六十九歳の部

優勝 外山 卓夫(杉並区)

第二位 浅見 喜代志(青梅市)

第三位 賀来 岳彦(三鷹市)

第三位 清水 良作(青梅市)

七十歳～七十四歳の部

優勝 矢崎 進(国分寺市)

第二位 今井 勝(青梅市)

第三位 金子 巧(八王子市)

第三位 吉野 博昭(葛飾区)

七十五～七十九歳の部

優勝 太田 文雄(町田市)

第二位 清水 孝司(小平市)

第三位 島崎 厚二(足立区)

第三位 田中 育男(葛飾区)

八十歳以上の部

優勝 秋田 範正(東大和市)

第二位 久松 好弘(日野市)

第三位 谷合 信次(八王子市)

第三位 小菅 昇(西東京市)



第30回TOKYO緑ジョイ！シニア健康スポーツフェスティバル女子の部入賞者

大会報告

第十七回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

令和7年7月13日

於 東京都

監督 荒川 富美恵
先鋒 木元 美麗(高体連)
次鋒 北井 沙樹(学クラ)
五将 佐藤みのり(警視庁)
中堅 近藤 美洸(警視庁)
三将 寺地はるか(千代田)
副将 大串真裕美(台東)
大将 大江 恵美(警視庁)

第七十五回日光剣道大会

令和7年8月18日

於 栃木県

二回戦 東京都 5-1 新潟県

三回戦 東京都 2-3 長崎県

監督 小林 一郎

先鋒 落合皓一郎(高体連)

次鋒 大浦彰一郎(中央)

中堅 宮本 浩平(学連剣)

副将 五十嵐 誉(皇宮)

大将 畠中 宏輔(警視庁)

二回戦 東京都 3-1 山梨県

準決勝 東京都 2-2 茨城県

第三位入賞

第七十九回国民スポーツ大会

関東ブロック大会

令和7年8月23日

於 群馬県

成年女子

総監督 平尾 泰

先鋒 佐藤みのり(警視庁)

中堅 二宮 恭子(西東京)

大将 大串真裕美(台東)

少年男子

監督 天野 康寿

先鋒 桑名 清純(明大中野)



第79回国民スポーツ大会関東ブロック大会
役員、審判員、監督、コーチ、選手

成年女子2位、少年男子2位、
少年女子1位で滋賀国スポの出場
権を獲得しました。

少年女子

次鋒 垣井昭太郎 (東海高輪台)
中堅 内藤 航 (郁文館)
副将 長谷川秀吾 (足立学園)
大将 久保木 瞭 (郁文館)
補員 田村 湊 (郁文館)

監督 坂田 正晴
先鋒 春山つくし (東海高輪台)
次鋒 杉本 歩夢 (淑徳巣鴨)
中堅 木元 美麗 (淑徳巣鴨)
副将 中原 舞 (淑徳巣鴨)
大将 小関 桃子 (淑徳巣鴨)
補員 小沼 優奈 (淑徳巣鴨)

第二十回全日本都道府県対抗

少年剣道優勝大会
令和7年9月14日

於 大阪府

小学生の部

監督 権瓶 功泰
先鋒 小野田孝良 (板橋区)
次鋒 藤 悠莉 (板橋区)
中堅 沖山 丈 (江東区)
副将 権瓶美咲子 (板橋区)
大将 鈴木 瑛斗 (江東区)

予選リーグ

東京都 3-0 和歌山県
東京都 0-4 大阪府A

中学生の部

監督 木村 孝治
先鋒 大山 雫 (中体連)
次鋒 橋口実生珠 (中体連)
中堅 宮林 優慎 (中体連)
副将 石倉 政嗣 (中体連)
大将 山崎 律 (中体連)

予選リーグ

東京都 1-3 滋賀県
東京都 0-1 鳥取県

第七十九回国民スポーツ大会

令和7年9月29日～10月1日

於 滋賀県

少年男子

監督 天野 康寿



第79回国民スポーツ大会
少年男女監督・選手

先鋒 桑名 清純 (明大中野)
次鋒 垣井昭太郎 (東海高輪台)
中堅 内藤 航 (郁文館)
副将 長谷川秀吾 (足立学園)
大将 久保木 瞭 (郁文館)

一回戦 東京都 4-0 富山県
二回戦 東京都 1-4 滋賀県

少年女子

監督 山崎 雄大
先鋒 春山つくし (東海高輪台)
次鋒 杉本 歩夢 (淑徳巣鴨)



第79回国民スポーツ大会
役員、成年男女監督・選手

中堅 木元 美麗 (淑徳巣鴨)
副将 中原 舞 (淑徳巣鴨)
大将 小関 桃子 (淑徳巣鴨)

一回戦 東京都 1-1 京都府
二回戦 東京都 2-1 宮崎県
準決勝 東京都 0-2 熊本県
三位決定戦 東京都 3-1 青森県

第三位入賞

成年女子

総監督 平尾 泰

先鋒 佐藤みのり（警視庁）
中堅 二宮 恭子（西東京）
大将 大串真裕美（台東）

一回戦 東京都 2-1 愛媛県
二回戦 東京都 3-0 長崎県
準決勝 東京都 1-1 岡山県
三位決定戦 東京都 1-2 神奈川県

成年男子

総監督 平尾 泰
先鋒 大平 翔士（警視庁）
次鋒 宮本 敬太（警視庁）
中堅 遅野井直樹（警視庁）
副将 権瓶 功泰（警視庁）
大将 岡本 和明（警視庁）

一回戦 東京都 2-0 福井県
二回戦 東京都 3-0 佐賀県
三回戦 東京都 2-0 岡山県
四回戦 東京都 2-1 神奈川県
準決勝 東京都 1-0 大阪府
決勝 東京都 0-3 滋賀県

第二位入賞

第六十回全日本居合道大会

令和7年10月11日

於 東京都

出場選手

五段の部 福永 靖史（板橋）
六段の部 滝澤 貴典（警視庁）

七段の部 吉田 真澄（文京）

総合成績
第三位



第60回全日本居合道大会
役員、選手

第三十七回全国健康福祉祭りふ大会
剣道交流大会

令和7年10月18、20日

於 岐阜県

Aチーム

監督 金子 巧
先鋒 小野間 弘
次鋒 川名 賢充
中堅 長田 克巳
副将 本多 秀樹
大将 金子 巧

Bチーム

監督 前島 国臣
先鋒 増野雄一郎
次鋒 大竹 聡夫
中堅 宇津木正弘
副将 伊垣 誠
大将 前島 国臣

ABチームとも予選リーグで惜敗

第五十二回全日本杖道大会

令和7年10月19日

於 埼玉県

二段の部

優秀賞 近藤 卓
村上 綾菜



二段の部 優秀賞
近藤卓選手、村上綾菜選手

第七十三回全日本剣道選手権大会

令和7年11月3日

於 東京都

優勝 星子 啓太（警視庁）



第73回全日本剣道選手権大会
優勝星子啓太選手

第七十三回全国青年剣道大会

令和7年11月8日、9日

於 東京都

男子団体の部

品川区

監督 紺野 剛
先鋒 江口 慶
次鋒 竹内 達也
中堅 木下 尚雅
副将 兵藤 陽光
大将 小野 貴博

二回戦 東京都 2-1 福岡県
準決勝 東京都 0-4 埼玉県

第三位入賞

女子団体の部

大田区

監督 渡邊 彩

先鋒 小谷野紗希

中堅 両角 咲羅

大将 澤井 臨菜

一回戦 東京都 1-0 長野県

二回戦 東京都 2-0 愛知県

準決勝 東京都 0-0 千葉県

決勝 東京都 0-2 神奈川県

第二位入賞

女子個人の部

敢闘賞 両角 咲羅



令和7年度全国高等学校剣道大会東京都予選会

令和7年6月14日

於 東京武道館

男子の部

準々決勝

森山(都富士) 1-0 桑名(明大中野)

齋藤(国士館) 1-0 長谷川(足立学園)

垣井(東海大輪台) 1-0 原田(国士館)

加藤(明大中野) 1-0 久保木(郁文館)

準決勝

桑名(明大中野) 1-0 長谷川(足立学園)

垣井(東海大輪台) 1-0 久保木(郁文館)

決勝

長谷川(足立学園) 2-1 久保木(郁文館)

女子の部

準々決勝

下川(日体大桜華) 1-0 春山(東海大輪台)

岡野(東海大菅生) 1-0 坂本(武蔵野大)

中原(淑徳巣鴨) 2-1 宇山(修徳)

木元(淑徳巣鴨) 1-0 奥田(東海大菅生)

準決勝

春山(東海大輪台) 1-0 岡野(東海大菅生)

中原(淑徳巣鴨) 1-0 木元(淑徳巣鴨)

春山(東海大輪台) 1-0 中原(淑徳巣鴨)

決勝

令和7年度全国高等学校剣道大会東京都予選会

令和7年6月22日

於 東京武道館

男子の部

ベスト16

明大中野 3-0 日大三

國學院久我山 2-2 東海大菅生

攻玉社 1-2 日体大荏原

明星 0-5 郁文館

都富士 1-1 都上水

正則学園 1-1 足立学園

杉並学院 3-2 日大一

東海大輪台 0-3 国士館

準々決勝

明大中野 1-2 東海大菅生

日体大荏原 0-3 郁文館

都富士 0-3 足立学園

杉並学院 0-3 国士館

準決勝

東海大菅生 0-4 郁文館

足立学園 2-1 国士館

決勝

郁文館 3-0 足立学園

女子の部

ベスト16

淑徳巣鴨 5-0 広尾学園

十文字 0-1 駒澤大学

都深川 2-1 新渡戸文化

関東第一 0-2 東海大輪台

修徳 3-0 晴海総合

日体大荏原 1-3 都青梅総合

日大三 2-3 日体大桜華

明星 0-5 東海大菅生

準々決勝

淑徳巣鴨 4-0 駒澤大学

都深川 1-1 東海大輪台

修徳 2-1 都青梅総合

日体大桜華 0-2 東海大菅生

準決勝

淑徳巣鴨 4-0 東海大輪台

修徳 1-1 東海大菅生

決勝

淑徳巣鴨 4-0 修徳

令和7年度東京都高等学校秋季剣道大会

令和7年10月25日・11月1日

於 エスフォルタアリーナ八王子

女子の部

ベスト16

淑徳巣鴨 4-0 日大三

広尾学園 2-1 日体大桜華

駒澤大学 2-1 明星

都立小松川 0-5 東海大菅生

東海大輪台 2-1 日体大荏原

桜美林 2-2 都立青梅総合

都立深川 3-0 都立晴海総合

新渡戸文化 1-1 修徳

準々決勝

淑徳巣鴨 5-0 広尾学園

駒澤大学 2-2 東海大菅生

東海大輪台 2-0 桜美林

都立深川 1-0 新渡戸文化

準決勝

淑徳巣鴨 4-0 東海大菅生

東海大輪台 2-0 都立深川

決勝

淑徳巣鴨 2-1 東海大輪台

男子の部

ベスト16

郁文館 3-0 日大一

立教池袋 1-3 杉並学院

立正大立正 0-5 東海大輪台

駒澤大学 0-4 国士館

東海大菅生 3-0 都立上水

京華 2-3 都立富士

明大中野 1-0 正則学園

日大三 0-3 足立学園

準々決勝

郁文館 2-2 杉並学院

東海大輪台 0-0 国士館

東海大菅生 3-2 都立富士

明大中野 3-1 足立学園

中体連大会

第六十四回東京都中学校総合体育大会
兼東京都中学校剣道選手権大会

令和7年7月22・23日

於 東京都武道館

個人の部

男子の部

ベスト16

山崎(秋多)	メ地主(郁文館)
大江(国士館)	メ小林(神代)
上原(三沢)	メ村越(国士館)
笠間(安方)	メ本田(青梅一)
杉本(郁文館)	メ権瓶(国士館)
石倉(関)	メ遠山(秋多)
国本(郁文館)	メ宮林(小平二)
小林(深川二)	メ松本(関)

準々決勝

地主(郁文館)	メ大江(国士館)
村越(国士館)	メ本田(青梅一)
杉本(郁文館)	メ石倉(関)
国本(郁文館)	メ小林(深川二)

準決勝

地主(郁文館)	メ村越(国士館)
杉本(郁文館)	メ国本(郁文館)

準決勝

郁文館	1-1	国士館
東海大菅生	0-1	明大中野

決勝

郁文館	1-1	明大中野
-----	-----	------

決勝

地主(郁文館)	1-0	杉本(郁文館)
---------	-----	---------

女子の部

ベスト16

大山(淑徳巣鴨)	メ山下(立石)
森下(秋多)	メ川原(新渡戸文化)
海野(足立十二)	メ小林(小山田)
白川(立石)	メ千葉(淑徳巣鴨)
村松(淑徳巣鴨)	メ橋口(深川二)
小池(新渡戸文化)	メ日野(明大明治)
金子(深川二)	メ三星(淑徳巣鴨)
林(小平二)	メ山本(貫井)

準々決勝

大山(淑徳巣鴨)	メ森下(秋多)
海野(足立十二)	メ千葉(淑徳巣鴨)
村松(淑徳巣鴨)	メ小池田(新渡戸文化)
星(淑徳巣鴨)	メ林(小平二)

準決勝

大山(淑徳巣鴨)	メ海野(足立十二)
小池田(新渡戸文化)	メ星(淑徳巣鴨)

決勝

大山(淑徳巣鴨)	メ三星(淑徳巣鴨)
----------	-----------

準々決勝

準決勝

決勝

団体の部

男子の部

ベスト16

郁文館	5-0	小山
攻玉社	0-3	深川二
志村一	2-0	足立十一
学習院	0-4	関
国士館	5-0	足立十四
銀座座	2-3	中野東

準々決勝

小平一	2-1	立石
目黒中央	0-2	秋多

準々決勝

郁文館	1-0	深川二
志村一	0-3	関

準々決勝

国士館	2-1	中野東
小平一	0-0	秋多

準々決勝

郁文館	1-1	関
国士館	3-0	小平一

準々決勝

淑徳巣鴨	5-0	砧
成蹊	1-2	東葛西

準々決勝

秋多	4-1	府中一
足立四	1-3	新渡戸文化

準々決勝

立石	5-0	墨田
小平四	1-3	桜美林

準々決勝

深川二	2-0	東海大菅生
国分寺三	0-1	日体大桜華

準々決勝

淑徳巣鴨	4-0	東葛西
秋多	1-1	新渡戸文化

準々決勝

立石	3-1	桜美林
深川二	0-3	日体大桜華

準々決勝

淑徳巣鴨	1-1	秋多
立石	0-3	日体大桜華

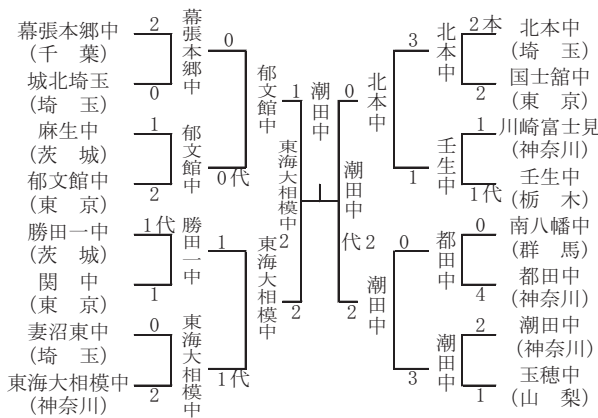
第五十回関東中学校剣道大会

令和7年8月8・9日

於 東京都

男子団体の部

第三位 郁文館中学校





前列左から山本氏、瀬戸口氏、大久保氏、小林氏
後列左から千葉会長、宮林専務理事

全日本剣道連盟剣道有功賞
東剣連が推薦した次の先生方が
受賞されました。(順不同・敬称
略)

小林 節 子 (西東京) 87歳
大久保 康 一 (大田) 78歳
瀬戸口 正 博 (江東) 93歳
山本 久 之 (品川) 93歳

少年剣道教育奨励賞
東剣連が推薦した次の団体が受
賞されました。(順不同・敬称略)

日本橋剣友会 (中 央)
駒本剣友会 (文 京)
鍊心剣友会 (葛 飾)
亀青剣道部 (葛 飾)
三気剣道会 (葛 飾)
花畑剣友会 (足 立)
東京桜武館 (新宿)
世田谷剣友会 (世田谷)
向原剣友会 (板 橋)
鈴木小剣道教室 (西東京)
清瀬市剣道連盟清瀬第八小学校稽古会場 (西東京)
アジア剣士会 (西東京)
樹徳会 (西東京)
小金井市剣道連盟 中剣道教室中学生部 (西東京)
国分寺剣友会第一道場 (西東京)
警視庁北沢警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁荻窪警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁代々木警察署少年剣道部 (警視庁)
王子警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁亀有警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁荏原警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁尾久警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁南大沢警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁大島警察署少年剣道部 (警視庁)
警視庁東村山警察署少年剣道部 (警視庁)



東京都ジュニア選手・育成強化事業剣道基本教室素振り

東京都ジュニア選手・
育成強化事業剣道基本教室
令和7年8月4日
於 中央区総合スポーツセンター



東京都ジュニア選手・育成強化事業剣道基本教室閉会式

称号・六段以上合格者

■剣道八段（8月10日於愛知県）
松脇伸介 47歳



職業 警察官
出身地 兵庫県
座右の銘「初志貫徹」

（11月20日於東京都）
城 祐司 47歳



職業 警察官
出身地 熊本県
座右の銘「継続は力なり」

■居合道七段（6月27日於茨城県）

一宮裕美・伊藤竜大・石塔実・山田博志・小川武司・中園陽子・酒井幹夫・藤原東海昭

■居合道六段（6月27日於茨城県）

笹栗隆司・馬場祐樹・古澤英之・淡路川佳代子・古川茂一・鈴木美代子・小川克郎・大嶋茂雄

■杖道七段（8月15日於千葉県）

峯岸幸雄・高山ゆき子・高山一三・中村理恵子・中村美代子・横尾正和

■杖道六段（8月15日於千葉県）

水島千幸・土屋安男・松枝弘太郎・堀内一昭・赤井達夫・多賀谷裕幸

■剣道七段（8月30日於宮城県）

【千代田】森上雄治・松村知勝【台東】山田人史・小野徳治【江東】小山倫子【江戸川】向井亮介・井上伸也【足立】石井夢津恵・石井信昭・尾身栄一・神寄弘和・伊藤きぬよ【中野】江口貴明・斉藤悦子【杉並】荒瀬透・菅井泰【渋谷】鶴田裕【港】田北博司【品川】紺野哲央・石川久恵【目黒】工藤紀子・渡部修三・山形守【大田】井田健太郎・石川貴久【豊島】清水寛仁【北】北宏志・川下妙子【練馬】永田卓也【西東京】渡部浩爾・下村聖二・樋口伸哉・遠山裕之・若林直司・森正志・宮下薫・清水正英【警視庁】石井良三・蒲原秀一・日野大作・瀬戸山剛広【皇宮】松井亮士

■剣道六段（8月31日於宮城県）

【千代田】藤永知志・阿知波尚登【中央】新井学【台東】篠貴昌・浅見拓郎【文京】橋本尚義【江東】小原基雄・黒田真砂樹【葛飾】松元直己【江戸川】増田真也・直井克公・渡邊光宏・渡辺徳子【中野】齋藤佐知子・横谷明男・横井明子・村上和雄【杉並】宮田博美【渋谷】氏昌未・福元邦雄【世田谷】安達美沙・小松研郎・川原敦司・西堂茂幸・谷川建司【目黒】山本武史・中川信博【大田】西村大地・村井妙絵・宇津徹也・市村俊一【北】

浜西理人【板橋】内河美由紀【練馬】中村亮太・佐藤友昭・片桐浩一・横田秀樹【西東京】高崎勇人・西村智久・澤井久佳・中津洋紀・原則雄・松原弘・市井三衛【警視庁】竹口千尋・辻田祐作・志方由久・市川裕一・江藤雄富・濱崎久・石坂浩二【法務】渡部透【学連剣】石川有里・新美俊太郎・中野晶仁・吉田篤志【高体連】田口峻也・石川真弓

■剣道七段（11月8日於愛知県）

【千代田】井上英昭【葛飾】河島勝【大田】渡邊篤史【西東京】中島英敬・小松原茂【消防庁】折笠雄基【学連剣】山崎真弓

■剣道六段（11月9日於愛知県）

【新宿】中島知彦【杉並】瑤子女王【西東京】脇村太樹・加藤千尋【警視庁】並木馨【皇宮】前田僚也

■剣道七段（11月14日於東京都）

【千代田】石井将勝・山下一郎・新井俊夫【中央】森下友洋・田村一芳・笠原賢順【台東】清水俊和・外川昌平【文京】山口香里【墨田】稲田みどり【江東】石川登喜子・佐藤裕二・内田成信・壇信一【葛飾】半澤優子・半澤洋幸・岡智広【江戸川】立野哲也・田島宏毅・大平美幸・綱島良明・波形恵子・

中山康夫【足立】西村勇輔・和島金土【新宿】阪下健作・田口栄治・伊倉幸代・田原恭子【中野】見市三佳・渡辺隆司・村山正廣・木村恵美子・重松健【杉並】村上朋子【渋谷】大岡英興・並木孝【港】堀内真人【目黒】長尾光春【大田】山城暁・傘義冬【豊島】南昌哉・安達祐耕・榊原高明・齋藤淳子【板橋】永田博史・新鷺直樹・藤川とし子・高橋平和【西東京】福島拓利・納谷俊大・星睦・田村義憲・栗原太郎・猪上勝也・津田祐之・林雅彦・土師博文・金子正明・森田浩・花房博文・衛藤淳・師岡範昭・佐藤三男・村上喜一・日野賢治・菊田俊博・中村弥寿義・上原孝夫・戸田知・宮部安男・並木昭子【警視庁】若尾邦浩・辻太地・加地進・古川泰史・小林佳司・穂谷野二郎・大内佑介・木内大輔・麻生達士・半谷勝士・森田訓仁・齋藤博之・山崎渉・山田智一・甲斐光明【皇宮】三輪とし子【法務】在本悠作・岡部真琴【自衛隊】松尾彰美・市川今日子【学連剣】工藤敏彦・岸壮吉

■剣道六段（11月15日於東京都）

【千代田】河野建吾・斎藤康平・川原田庸一・高橋聡・金子健・阿達雅志・田中一穂【中央】上垣和・大浦彰一郎・田邊健記・内野浩二【文京】木村香織・原田茂

樹【江東】吉澤教弘・垣内洋・和泉美治・小室好孝・高橋小雪【葛飾】安藤力・石山明美・安藤康雄・北将孝・福澤大輔・齊藤直正・青柳景介【江戸川】島村健司・若林定夫【足立】石井祐太・野口忠克【新宿】堀米剛史・水谷揚次郎【中野】江口章子・鎌田敏弘・小村朗・安藤隆章【杉並】網屋徹・門田健・本田敬・神尾泰宏・桜井弘明【渋谷】上島郷・小山大輔・伊藤歩・堀裕弘・物江芳明【世田谷】栗田和範・菅野陽介・花木伸哉・阿武誠二【港】宮田賢吾・鈴木賢太郎【品川】桑江藍子・中村三郎【目黒】浅野達郎・荻久保慎一【大田】根本祥太郎・滑川隆・菱田陽介・常木尚隆・馬淵和士・黄珊瑚・清水洋一郎・小松茂【豊島】貝塚正美・佐藤正人【北】根本努・佐久間優【荒川】松本浩一・若林國子【板橋】大野武尊・丸山慧・戴晶莉・高林亮・益子博之・和田琢哉・笠嶋房子・伊藤秀明【練馬】矢ヶ崎日路・室坂吉紀・團野博之・白浜琴絵・鈴木牧子【西東京】中西新・山崎雄大・宮元拓也・田門深・樋渡寛厚・小田明広・伊東千温・鎌田陽一・高柳清可・土井啓史・中村和博・Horanage Anura MUNASINGHE・高島愛子・杉原唯哲・田代道雄・新井満・池田晋・立和名久夫・福田美穂・平川三裕・多田一吉・藤

本静恵・福山昭博・加藤千代子・岩室正巳・島田聖一・三輪春樹・鈴木伸二・安田薫【警視庁】池永忠能・横濱大丸・細江真己人・横地俊英・黒尾丸雄平・岳下雅彦・野原友宏・古郷巧実・黒木大聖・高崎祐太・中山未来・小川大貴・渡邊俊樹・柴田隆広・小川玄・吉野崇史・平原聡・芝山央士・土屋大悟・永田純一・笠野大志・窪太一郎・恵良信治・井野潤一・飯田真司・小幡健次郎・柳村格・十河尚志・西野伸太郎・蜂須賀利雄・橋本和彦【皇宮】松本行央・堀内尚【法務】柏木真宙【自衛隊】吉井拓也・小林拓郎・山方竜二・穴浦正悟【消防庁】加藤宏之・堀辺信行【学連剣】瀬川剛・中地真一・大庭幸治・羽田仁一・千葉光太郎・福田哲夫

剣道錬士（11月20日於東京都）

【千代田】今井大輔・新井俊夫【中央】飯塚玲加・奈須政浩・藤田雄久・田村一芳【台東】和栗諒人・長濱繁樹・鈴木仁美・鈴木崇弘・鈴木隆徳【文京】服部洋明【墨田】志村卓哉【江東】高橋崇・内田利治【葛飾】二瓶聡【江戸川】中村幸子・渡邊透【足立】石塚敦・正満宏和・松田紀男・山口谷信一【新宿】稲川貴久・矢野剛・河野その子【中野】波多野佑亮・高田譲児・三宅紀子・金川博・富永和

也【杉並】太田雅英【渋谷】藤原郁大・迫田和良【世田谷】鈴木盛史・清水啓稔・麻生忠利・日野昭洋【港】藤井淳・宮崎正道・鈴木秀洋【目黒】渡辺雅人【大田】青柳龍・横山行哉・高山忠和【豊島】安心院実【北】大岡勝久・三橋義明【荒川】神山直己【板橋】漆原千晃・齋藤秋哉【練馬】高橋比沙子・宮崎正・重松公・服部良彦・柴田哲也【西東京】村富聖気・葛本葵・曾我宣之・伊藤洋佑・高良賢一・木村茂雄・尾崎亮・早川順治・青木貴子・山田清徹・土方宏光・木庭雄至・井上徳一・浅井真一・山際奈緒美・中村豊・濱口孝一・増井仁・千葉哲文・中根洋一・榊原宗・宇津木謙二【警視庁】森宏恵・高梨浩樹・近藤美洸・中澤秀幸・鹿内亮佑・山崎大作・深澤正之・秋庭伸太郎・西島隆治・福田哲也・櫻井浩昭・土田英晃【皇宮】村松洋輔・五十嵐譽・三輪とし子・津本義也【法務】猪瀬肇【自衛隊】阪田宗昭【消防庁】高平和哉・光野邦裕・佐藤洋祐【学連剣】野村慶徳・三木勤・菊池隆志

剣道教士（11月20日於東京都）

【千代田】森川博昭・千田誠一郎・河田進・中井将博【中央】金森直人・神山忠央・谷川勝【台東】山田剛士・岡部知子・新谷泰孝【文

京】小島浩人【江戸川】佐藤久美子【足立】藤村健太郎・市江義治・高田寛【新宿】萱嶋満津保・黒川恵【中野】尾崎浩康・成嶋伸浩【杉並】財満信次【渋谷】脇園爽加【世田谷】山中信己・竹内奈津子【港】西山晶造・河田正俊【品川】紺野剛澤井弘和・黒川頼久・宮本智・二宮利一【大田】中村はぎ乃・長縄香・堀内直・五十嵐清裕・川上由紀子・神成真幸【豊島】前島宏敏【北】小林夏樹・河野恒男【荒川】齊藤美希【板橋】今有礼・深澤陽平・伊東康宏・林義幸・大野美奈子・服部博史【練馬】家志祥平【西東京】谷口俊司・伊藤創・鹿島幸宏・中川弘昭・北村和也・笹岡昌史・森本善幸・澤井絵美・石間裕康・荻村寿浩・滝沢修一・山部栄治・佐原弘志・加藤初美・池田貴・助川良幸・大津正裕・馬場康嘉・三浦正人・内野正義・喜入肇・酒寄仁・中根三代子・内藤雄二【警視庁】飯蓋深水・馬場悠生・土屋茂之・石濱和哉・山田正志・寺本宗久・石塚智史・石井雄一・宮田肇・関谷健二・吉田誠司・宮崎正明【法務】金重忠道・川本健二【自衛隊】佐々木重雄【交通局】内山裕嗣【学連剣】上原祐二・望月彰・井谷享・服部恭典

居合道錬士(11月20日於東京都)

島田憲正・田嶋久和・服部麻子・佐藤大八・平岡靖之・光野邦裕・森口玉基・小林美雄・鈴木武英・高橋誠・浜崎妙子・平田泰生

居合道教士(11月20日於東京都)

浅井正章・中野広輔・高城剛・羽瀨美賀子・今西辰夫・越湖正道・彦田きよ子・菅野玉雄

杖道錬士(11月20日於東京都)

難波明史・角田知明・山崎潤

杖道教士(11月20日於東京都)

高鷲強・荒木信男・田中久枝

居合道七段(11月30日於東京都)

渡邊聡・太田修司・鈴木武英・滋野雅民

居合道六段(11月30日於東京都)

庭野薫・安孫子幸・池田摩梨子・神戸伸治・高橋順美子・齋藤勝・竹内睦・ポールマーティン・服部良彦・橋爪天・森秀夫・川上俊一・中村良一・日高義博・和田義雄・橋口安輝・横山貴一・岡信一彦・松山好延

居合道四・五段審査会

(9月27日於東京武道館)

五段合格者

永原典矢・河村豪祐・CASTILLO RODNEY・進藤陽一・高鷲強・山本暁・川井宗威・武富由佳・浦尾和弘・片岡登久・深井正樹・林晋作・呉勉良・小林和子・石田信二・祓川隆弘・田部裕・Pedro Sors・戸叶秀晴・植松義

四段合格者

十時莉音・宇田尚員・谷口昌也・開口裕教・MAIRE JEREMIE・西原亜南・黎君怡ジャッキー・高山香織・佐藤航一・阪井剛・魏玉心・金子義政・小林久恒・酒井孝弘・木下栄一・福田剛・芹沢壮光

【もう一息の受審者】

五段

26 10 17 21 24 27 30

四段

26 9 11 27 28 30 43 46 47 51 57 58

杖道四・五段審査会

(10月4日於東京武道館)

五段合格者

田伏廣輝・谷口昌也・照沼志保・

松本みゆき・石田勝彦・桂真由美・森口和晃・小澤一恵・田中一朗

四段合格者

松下勉大・志賀亮紀・川越伸二・東原竜司・西貝武晃・鍋田共志・中村幸夫・渡辺伸寿・秋野詔夫

【もう一息の受審者】

五段

4 6 14

四段

9 14 24

剣道四・五段審査会

(11月29日於東京武道館)

五段合格者

【千代田】安藤靖彦【中央】山下雄大【台東】鈴木悠作・新谷恭平・川畑岳陽【墨田】三浦健太郎【江東】井上雄太郎・平野誠人【葛飾】後藤優斗【江戸川】石原英威【新宿】小池太陽・藤川学【中野】有村寿洋・翁長涼子【杉並】大西幸基・清水光子・杉山元【渋谷】上林千紘・星屋宏道・浅井信太郎【世田谷】伊藤宏【港】丸井謙志・川原陽武【品川】宮本尚宏【大田】武藤哲朗・山本陽介・山本大樹・大森航【豊島】藤本寛大・小

松柔佳【荒川】君野翼・青木紀・小川哲夫【板橋】元井天音・上野広太・大崎隆盛・浅井将太・青木克枝・鳥飼貴【練馬】江頭義英・

【西東京】小松花香・船谷愛華・丸地隼・杵掛哲平・松崎玄翔・東堂一貴・田中辰弥・川寄正暉・吉田悠太郎・今井佑紀・内田頼望也・尾形智子・増子亮・住谷恭弘・中本幸子・山縣孝司・栗田隆司・倉増晃子・延島陽一郎・山田康一・佐野重雄・吉田美佳子・末岡映二・吉田雅宏・鈴木正元【警視庁】大隈康兵・進藤大明・宮臺凜明・立澤大誠・山下慧・比佐心・高木雄哉【皇宮】小林慎太郎・長谷川千佳【法務】加藤至恩・佐々木廉・人見和幸【自衛隊】岩戸将和・梅澤宗広【学連剣】百田尚史・山本聖人・柴田伸太郎・得平茂樹・【高体連】村上航介

四段合格者

【千代田】早尾航希・向江脇航・梅落太郎・鎌田政一・小山嗣信・濱田芳穂・河内元太郎【中央】熊谷拓【台東】片庭駿・佐藤さやか・渡辺雅士【文京】田中裕偉・瀬川雄三・野沢愛・田井誠・小林大介【墨田】佐川達也・宮崎拓也・福島香代子・鹿糠秀俊【江東】外丸将・丸林逸郎【葛飾】安部成美・大平智也・木村敬利・中尾達雄・熊谷栄治【江戸川】廣瀬あき子・

太田智也・山口拓也【足立】竹下海風・國井奎侑・山崎彩海・吉瀬紳剛・田中鉄兵・久保洋子・浅利俊一・佐藤和敏【新宿】石原実佳・荒川康晴・清水理沙・田中真之・神戸桜子【中野】古瀬和寛・廖翔・台井安奈・塚本素清・田原千佳世【杉並】岩見治騎・吉田真菜・松永美波・齋藤英恵・山本勝清・伊藤幸次【渋谷】小泉俊祐・櫻井佑興・神子田章博【世田谷】清水優樹・勝本将暉・小松雄哉・津村武男・岡美和・古瀬肇・遠藤明芳【港】中尾望・鈴木碧・谷洋光・大西優斗・米満広将・藤橋誠【品川】小倉大河・岩井浩一・有光治人・小宮知久【目黒】西野克行・早川道也【大田】石井鈴莉・日景琴音・竹崎晃弘・橋本幸宣・上田昌則・倉持健【豊島】島野工・若杉大輔・谷口順司【北】梅原ほづみ・大上忠明【荒川】阪内和清・浅川雄史【板橋】新井千陽・松崎寛太・小倉隼人・石川一【練馬】丸田万莉奈・松木大和・三浦智輝・鈴木雅斗・錦戸星・阿部凌大・中村庄吾・前田圭介・小西祐馬・佐々木美紀子【西東京】新海響生・手塚陽太・星野朝・岩川峻也・小原大輝・中村心咲・和田颯太郎・砂廣幸寿・岡部優希・長谷川湜太・宮城拓郎・平野結希・鴨田翔・中嶋まどか・久保田夏海・平戸寛朗・近藤太・青木太一・星野将弘・香坂賢吾・加藤俊雄・船戸恵・村瀬陽介・好田康智・平本智司・SACCHI ALESSANDRO・塩川一樹・大濱賢吾・新免浩一郎・加藤貴子・衛藤真・谷田部敬太郎・菅原元博・和智強・松浦邦明・丸山義治・田中周一朗・小林宏・林崇弘【警視庁】松下千晶・櫻井慧人・岡田隆志・剣持房栄・杉山敬一【法務】木幡裕介・蔵富有稀【自衛隊】大賀彩子・内田悠月・長友亜紗妃・勢登翔吾・小林佑実・大友一樹【交通局】杉井隆広【学連剣】小口晴矢・Anton Garcia Y Rodriguez【学生クラブ】前川友俊・大越心・岩岡志音・北口さくら・竹下陽子・倉田小晴・片岡太雅・柴田雄登・手嶋紀南・黒崎煌喜・瀬尾七海・平塚詩織・丸野優星・鷺見竜弥・飯山雄斗・斉藤颯真・塚本菜々子・柳澤茉結・城銀河・名和瞭成・小松周太郎・福林由夏・新庄咲花・高田一葉・小松原直仁・宮武真欧・加藤諒大・佐藤優磨・中村奎智・大久保泰輝・高木優芽・三浦愛莉・細野善輝・上山剛史・田邊隆太・野頭俊輔・下鍛治仁貴・井上紘希・池田龍未・與座麗奈・小野南・桑原伸之介・深田藍利・多米奈菜・鈴木慶彦・石田俊太・村越紀保・廣澤優樹・笠井隆裕・久徳和夏・寺井健介・吉田雪花・島村征一我・安間公健・大高良太【高体連】藤田

真路・菅沼寛・久光翔・安部貴住

【もっ】息の受審者

五 段

27	28
37	40
41	54
59	72
99	111
124	129
137	153
159	294

四 段

16	22
28	30
32	51
54	55
56	62
63	65
73	77
79	207



麻酔のお話し (2)

東京都剣道連盟医学委員会

委員長 萩原 幸彦

前回は「麻酔」という言葉は鎮静と鎮痛という二つの意味を持っていることと、全身麻酔は鎮静・鎮痛・筋弛緩・有害反射の抑制という四つの要素で成り立っていることをご説明しました。残念ながら全身麻酔の安全性に関してのお話しが漏れていましたので簡単にお伝えいたします。日本麻酔科学会（以下「日麻学会」）によりまずと全身麻酔が原因で患者さんが亡くなるのは10万例に1例程度と報告されています。これは航空機の死亡事故発生率0.0009%と同等で、交通事故死の0.003%よりもはるかに低いことが分かります。全身麻酔で使用する薬剤や機器の大幅な進歩に加え、全身麻酔前の厳密な患者管理（詳細は次回に触れます）が浸透してきた結果と考えられます。いかがでしょうか、全身麻酔へのご理解がいくらかは得られましたでしょうか。

【麻酔の区分】

さて、今までお話をしてきましたように麻酔全体は意識および痛みの管理という二つの柱から成り立っていますが、それぞれに独自の分類法があります。その概略を鎮静と鎮痛に分けてご紹介いたします。

(1) 鎮静

意識を低下させる鎮静は、患者さんの緊張や恐怖感など精神的な苦痛を和らげる目的でも使用されます。日麻学会では鎮静の深さによって（表1）のような患者さんの反応性による段階を設定しており、各段階での特徴的な状態を挙げて安全性の確保に努め

ています。以下簡単にご説明いたします。

①最少鎮静…患者さんは軽度の無関心状態ですが、呼びかけで正常に反応できる意識レベルにあります。体の他の機能に対する影響はありません。

②中等度鎮静…患者さんは傾眠状態（周囲からの刺激がないとすぐに眠ってしまう状態）になっており、少し大きな声かけや肩をたたく程度の刺激で一時的に目を覚ますことができます。呼吸や心臓などの機能は正常に維持されています。

③深鎮静…完全に寝ている状態で、なおかつ咳などの生体防御反射が弱まります。強い痛み刺激を繰り返すと体をくねらすなどの反応はありますが、鎮静が深くなりすぎますと極度な呼吸低下になることもあり、場合によっては呼吸を助ける処置が必要となります。循環器系の機能は通常は維持されています。

④全身麻酔…深鎮静から更に鎮静を深くすることによって到達する状態で、強い痛み刺激でも目を覚ましません。呼吸は不十分となりやすくほとん

表1 鎮静と全身麻酔の分類と定義

	最少鎮静	中等度鎮静	深鎮静	全身麻酔
反応性	呼びかけに正常に反応する	呼びかけ、接触刺激で合目的に反応	繰り返す、有痛性刺激後、合目的に反応	有痛性刺激で未覚醒
気道	影響されない	介入不要	介入が必要なことがある	しばしば介入必要
自発呼吸（換気）	影響されない	適切	不十分なことがある	頻繁に不十分
心血管機能	影響されない	通常は維持	通常は維持	障害されることがある

（日本麻酔科学会HP：指針・ガイドライン；安全な鎮静のためのプラクティカルガイド より）

どの例では気管に管を入れて（気管挿管）、人工呼吸で管理することになります。心臓の動きなど循環器系が抑制されることもあります。

このように鎮静の深度は薬剤の投与によって連続的に変化し深まって行きます。したがって目的に合った適切な鎮静状態を安全に維持するには呼吸を監視するモニターなどを駆使した患者観察が必要となります。また目的から外れた状況、たとえば呼吸が完全に止まった時などに、適切で速やかな対応ができる準備は必須となります。なお近年では処置や検査の刺激に対する鎮痛対策も鎮静の行為に含まれる、という考え方になっています。

（2）鎮痛

痛みを緩和する鎮痛の方法は患者さんの意識の有無によって以下の二つに区分されます。

①区域麻酔…聞きなれない表現でほとんどの方は初めてご覧になったかと思いますが。これは患者さんの意識が保たれたまま行われる鎮痛法の総称となります。処置の対象となる身体の部位によって方法も変わりますので、負担の軽いものから順にご説明します。

i) 傷口など外科的処置をする部位に直接麻酔薬を注射する「局所浸潤麻酔」、鼻や喉にスプレーで麻酔薬を噴霧する「表面麻酔」などは「局所麻酔」としてまとめられています。主に外来での治療や検査の鎮痛法として使用されていますので、実際に体験された方も多いことでしょう。

ii) 痛みを伝える知覚神経に沿って局所麻酔薬を注射して、その神経が支配する領域の痛みをとる方法は「末梢神経ブロック」と呼ばれます。指の付け根でブロックするとその指全体が、首の付け根や脇の下などで注射すると腕の鎮痛が得られます。多くは超音波装置（エコー）や電気刺激などを持ちいて神経の走行を確認して行われています。ちなみに眼科手術

で行われる「球後麻酔」もこの部類に入りますが、我々麻酔科医には遠い存在となっています。

iii) 背骨に沿って走っている脊髄を袋状に保護している組織の一番外側は「硬膜」という比較的しつかりしたものです。その硬膜の外側のスペース（硬膜外腔…こうまくがいくう）に局所麻酔薬を注入して、体幹や四肢の鎮痛を行う麻酔方法を「硬膜外麻酔」といいます。体幹では胸やお腹の対応した部分が水平な帯状に鎮痛されますが、その部位の運動機能は維持されています。胸やお腹を大きく切る手術では硬膜外腔に細いチューブを挿入して留置しておき、鎮痛薬を持続的に流すことで術後の疼痛を緩和する方法がとられています。この麻酔法は無痛分娩でも使用されているなど各方面で重宝されています。

iv) 硬膜の内側は脳脊髄液で満たされています。脊髄はその脊髄液の中に漬かった状態にあって、例えていえば瓶の中に漬かっている朝鮮人参のような感じになっています。腰から細い針を刺して硬膜を貫き脊髄液内に局所麻酔薬を注入し、直接脊髄を麻痺させて鎮痛を得る麻酔方法を「脊髄くも膜下麻酔」と呼びます。一般に「モウチョウ」と言われている虫垂炎の手術や脚の骨折の手術で行われる「下半身の麻酔法」で、薬が効いている間は足が動きません。また麻酔薬が上半身の方に広がりすぎますと血圧の低下や呼吸困難、時には呼吸停止も引き起こす危険性があります。かつて世の中で報じられた麻酔事故の多くはこの呼吸停止の発見が遅れたことによるものとされています。

②全身麻酔…基本的に点滴から鎮痛薬を投与していますが、手術の術式や患者さんの状況によって上記の区域麻酔を併用しています。局所的な鎮痛を得るには区域麻酔の方がはるかに効果的なのです。以前は脊髄くも膜下麻酔で行われた手術も現在では

全身麻酔で行われることが多くなりました。全身麻酔の安全性向上によって患者さんの精神的・身体的負担が脊髄くも膜下麻酔よりも軽減されたこと、加えて入院期間も短くなるという利点が重視されたことによります。

【麻酔科医の業務】

以上のような方策を組み合わせて麻酔科医は業務を行っています。当然手術室での全身麻酔管理が主体ですが、そこで培ったノウハウ、鎮静と鎮痛の方法だけではなく全身麻酔中の呼吸や循環の管理、そして手術室内の安全管理までを含めて発展させてきました。なんといっても麻酔科医が管理している全身麻酔中の患者さんは寝た状態なので自分に起きている変化を周囲に伝えることはできません。つまり麻酔科はご本人の状態を代弁する最後の砦として業務にあたっていると言えます。このような経験の延長線にあつて麻酔科が関与している代表的な部門としては、重症の患者さんを集約的に治療する集中治療室、および痛みの治療を専門とするペインクリニックが挙げられます。最後にこの2部門のお話をいたします。

(1) 集中治療室 (ICU: Intensive Care Unit)

ICUではいろいろな病気で重症となった患者さんを受け入れて治療をしています。心臓手術などの大手術後の患者さんもそのなかに含まれています。意識があつて極度に辛い状態を続ける結果的にはむしろ症状を悪化させることとなります。そこで患者さんを一時的に深い鎮静状態や人工呼吸を必要とする全身麻酔並みの状態にして、ダイナミックな治療を行って快復を目指していきます。同時に周囲からの強い刺激によるストレスを抑えるような鎮痛対策もとられており、まさに手術室の延長状態と言えます。

(2) ペインクリニック

日常生活で辛い思いをしている痛みを専門的に扱うペインクリ

ニック、いわゆる痛みの医療ではレーザー機器や東洋医学も取り入れつつ身体の痛みのみならず心の痛みにも対応しています。たとえば社会的問題となつています帯状疱疹ですが、発症した時点から鎮痛治療を行うことによつて難治の帯状疱疹後神経痛への移行が低下するとされています。この場合「神経ブロック」や「硬膜外麻酔」が適用されますが、発症から時間が経っているとその効果を得られなくなるので早めの鎮痛対策をお勧めします。このようなペインクリニックでの対応は緩和医療でも役に立って、緩和ケアの世界に進む麻酔科医もすくなくありません。

プロフィール

氏名	おぎはら ゆきひろ
年齢	68歳
出身地	神奈川県横浜市
出身学校	東京医科大学
経歴	東京医科大学卒業後同大学大学院(麻酔学)に入学、その後東京医科大学病院麻酔科医局長等を経て東京医科大学麻酔科学分野(名称変更)臨床教授、定年退官後東京医科大学特任教授、本年度より八王子消化器病院麻酔科顧問。医学博士、日本専門医機構麻酔科専門医、公益社団法人日本麻酔科学会認定麻酔科指導医

剣道 座右の銘

錬士七段

「以心打心」故・大柵一郎先生(医師、剣道・居合道範士八段)より頂いた色紙の言葉です。「剣の道は心をもって心を打つこと」と論されましたが、自己流に「何事も心を用いて行わねば相手の心に響かない(理解されない)」と意識してから座右とし、自戒反省の礎としています。

女子大会の拡大開催

居合道部会

事業担当理事 柳 徹

令和7年度上半期（4月～9月）の活動は次の通りです。

※居合道部会として

- ・第61回東京都居合道大会
- ・第32回東京都女子居合道大会

- ・三段以下審査会、級位審査会

- ・居合道伝達講習会、審判および実技講習会、女子審判講習会

- ・指導者講習会、登録審査員研修会、六・七段受審者講習会

- ・スマイルスポーツ（東京武道館）広域合同稽古会への講師派遣

- ・地区単位で開催される講習会への講師派遣

※居合道部会主管として

- ・四、五段審査会（東京武道館）

- ・第60回全日本居合道大会東京都代表選考会（東京武道館）

※全日本剣道連盟行事への参加

- ・全日本剣道演武大会（京都府）

- ・中央講習会、地区講習会（茨城県）

※ほか、他県開催大会への参加

令和7年9月14日に開催された、『第32回東京都女子居合道大会』は昨年まで関東甲信越地域までだった参加者の枠を東日本全域にまで拡大し、一都一十六県から370名の参加者が集いました。審判員から係員に至るまですべて女性参加者による運営という稀有な大会に育っており、今回拡大できなかった県からも参加したいという打診が来ておりまして、女子居合道家の親睦、そしてさらなる発展の良ききっかけとなりました。また、『地区単位で開催される講習会への講師派遣』は、5月には墨田区剣道連盟居合道部の実技講習会に講師派遣を実施いたしました。今後も地区単位で行われる審判講習会への講師派遣の要望もあり、この活動を通じて東京の居合道の底上げを試みていきたいと思っております。以上を、令和7年度上半期の活動報告といたします。



居合道伝達講習会より

初の杖道団体戦への挑戦

杖道部会

日本武道館 武道学園杖道教室

近藤 卓

2025年7月の東京都杖道大会において、初の試みである団体戦が開催されることを知ったのは2024年の秋頃だとい憶しております。杖道の団体戦は3人制で、大將が五段以下、中堅が四段以下、先鋒が三段以下という段位の制約があります。我が日本武道館Aチームは全員が二段での編成となり、私は大將の大役を仰せつかりました。日本武道館チームは他の模範となるべく、稽古時間に必ず模擬試合を行い、試合場への入退場や所作・作法に至るまで先生から細やかなご指導をいただきました。その稽古が本番で心の余裕を生み、優勝の一因になったと確信しております。

ご存じの通り、団体戦は個人戦と異なり、自身が敗れたとしても仲間がその敗戦を補い、勝利することができます。私たちも例に漏れず、1人が敗れても2人が取り返すことで決勝戦まで駒を進めました。決勝戦は1勝1敗で勝敗は大將戦に委ねられました。会場の全ての視線が注がれる張り詰めた中での一戦

でしたが、程よい緊張感の中、日頃の稽古で培った自分の持っている全てを出し切れたという満足感がありました。私たちは二段だけで編成されたチームであり、どの対戦相手も技術的に格上であると認識し、胸を借りるつもりで、ただ全力を尽くした事が功を奏しました。最後になりましたが、日頃よりご指導くださる先生方、そして、いつも温かく見守ってくださった先輩方のおかげで優勝することができました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



優勝後の記念撮影

支部活動報告

連盟稽古、講習会の充実に向けて

江戸川区剣道連盟

理事長 富永 哲雄

江戸川区剣道連盟は、週4日の稽古を設定しており、月曜日は葛西スポーツセンター、火・金・日曜日は江戸川区総合体育館で実施しています。



連盟講習会

連盟稽古では、必ず稽古指導責任者を置き、稽古とともに不測の事態にも対応できるようにしています。また、新型コロナウイルス感染症等の対策として、面シールド、マスクの使用を周知徹底し、休憩、水分補給を行い体調管理にも気を配っています。

稽古内容として、素振り、基本稽古、地稽古を行っています。日曜日の稽古では、竹刀稽古の前に1時間、第1週は木刀による剣道基本技稽古法、第2・第4週は中田琇士範士による日本剣道形の勉強会を実施しています。中田範士は常に「審査会、形大会の為に稽古ではなく、剣道形が竹刀稽古に結びつかないといけない」と言われ、指導いただいています。

現に東京都剣道形大会の当連盟選手はしっかり形稽古を行います。すると、出場した多くの選手が昇段しています。

その他に月に1回、女子部、青年部の稽古も実施しており、

稽古内容はほぼ同じです。

当連盟では、支部の意思統一を図る為に、支部公認指導員研修会と当連盟単独の剣道講習会を年一度ずつ実施しています。区民大会の審判員は、この講習



連盟公認指導研修会集合写真

会の参加が義務付けられています。

当連盟の大きな課題は会員数の減少です。ここ数年減少傾向が続いています。これは少年剣士も同様です。当連盟では、少年剣道強化稽古会も実施しています。小学生は支部所属のため、ある程度の人数は集まりますが、中学生の参加が少なかったため、打開策として、区民大会等の上位入賞者を強化指定選手に指名しました。これにより参加人数も増えていきます。

稽古内容も、木刀による剣道基本技稽古法と竹刀稽古ではほぼ連盟稽古と同じです。

これからも東京都剣道連盟、江戸川区関係各所のご協力を得ながら、充実した連盟活動を行っていく所存です。

七十周年を超えて活動と取り組み

渋谷区剣道連盟

理事長 物江 芳明

事業活動としては、これまでと変わらず、区民大会、三段以



合宿

下審査会、級位審査会、合同稽古会等を実施しています。

区民大会は、春季、秋季と二

回実施し、それぞれ小中学生の部と一般の部の2日間で行っています。コロナ禍等により一時参加者が減少していましたが、現在では以前の規模に復することになりました。一般の部では、秋季大会の個人戦を年齢別の部門とすることも引き続き行っており、高段者の方も参加できるようにしています。

審査会は、三段以下の審査会、級位審査会を年2回ずつ行っていますが、昨今受審者数の減少という課題が大きくなり、今後の対応が課題となっています。

講習会、稽古会としては、年2回の審判講習会のほか、合同稽古会の実施、また毎週水曜日に「渋谷区オープンクラブ」として広く区民等が参加できる稽古会を実施しています。

また、連盟主催の合同合宿も新型コロナウイルスの蔓延で中止を余儀なくされていましたが、昨年より再開することができました。今年度も山中湖畔の宿舎で1泊2日の合宿を行うことができました。

渋谷区では、毎年渋谷区ス



70周年祝賀会

ポーツ協会主催で「渋谷スポーツフェス」を実施していますが、当連盟でもこれに参加し、子供や初心者を対象とした体験会を行っています。

また、一昨年のことになりましたが、令和5年には渋谷区剣道連盟発足70周年を迎えることができました。秋季区民大会では、

一般の部の個人戦を段位にかかわらずないオープン参加で行うなど、記念大会として開催しました。また、11月には祝賀会を行いました。

これからも講習会の実施や定期的な合同稽古会の開催を通じて、また新しい事業を検討するなどして、会員が切磋琢磨できる場所を提供するとともに、互いに親睦を深める場も提供できるように環境づくりを進めてまいります。

ハリーポッターの街で稽古しませんか

練馬区剣道連盟

理事長 乙川 和之

練馬区剣道連盟は、全日本剣道連盟が創設された昭和27年に発足し、今年で創立73年を迎えます。加盟団体数は47団体、登録会員数は1000名を超え、練馬区内における剣道の普及振興と青少年剣士の指導育成に努めております。

加盟団体には、全国大会などで活躍し、数多の精鋭剣士を輩出している東松館道場をはじめ、青少年の剣道指導育成にひ



第68回城北五区親善剣道大会

た向きに取り組む秀逸な剣道団体が多数加盟しています。当連盟では、練馬区立総合体育館剣道場を活用して、毎月第1・3土曜日に連盟合同稽古会、第2・4・5土曜日に青少年強化育成稽古会、そして第4土曜日は後半には女子稽古会を開催し



日本剣道形等講習会

て、会員の剣道練達と強化育成を図っているところです。
また、練馬区役所においても、区民への剣道普及に力点を置き、剣道具や竹刀を新調したうえ、当連盟が委託を受けて初心者剣道スポーツ教室を開催し、多くの老若男女が初心者剣士と

して竹刀を握っています。

加えて、日本剣道形の重要性を再認識し、日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法講習会を開催しています。本年も、教士八段横内良道先生を講師に迎え、形の理合や心構え、そして形実技について懇切丁寧なご指導をいただき、会員からも大好評を得るなど有意義な講習会となっています。

さらに本年は、豊島・北・板橋・荒川および練馬区の城北五区が一堂に会して練馬区立光が丘体育館において第68回城北五区親善剣道大会を開催しました。

これら指導育成強化の結実として、本年3月に開催された東京都少年剣道大会では、練馬区剣道連盟Aチームが準優勝しております。

他方、剣窓でもご紹介いただきましたが、中学校体育授業協力業務においても、当連盟のベテラン指導者を派遣し、中学校での剣道指導を通じた人間形成の道に寄与しています。

当連盟では、他団体の皆様と合同稽古会や練習試合なども

開催したいと考えておりますので、ご指導いただける連盟がありましたら当連盟ホームページ掲載の事務局までご連絡ください。ハリーポッターの街で皆様と剣を交える機会を心待ちにしております。

剣道発展に向け、稽古・審判講習の実施

東京都自衛隊剣道連盟

事務局長 本田 喜久雄

新年あけましておめでとうございます。本年も東京都自衛隊剣道連盟をよろしく願いいたします。

戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に加え、気候変動によるこれまでに経験のない自然災害の発生など、防衛省・自衛隊を取り巻く環境は、一層厳しさを増している中、加盟員一人一人が、稽古の機会を作り、稽古を通じて心身を鍛錬し、人間としての内面を成長させ、社会に貢献できるよう日々励んでおります。

近況としては、令和6年11月26日の八段審査において、当連盟所属の中原泉が、横内良道以

支部活動報告

来、現役自衛官としては5人目となる八段昇段を果たしました。この快挙に、現役の自衛隊員のみならず、OB・OG含め連盟全体が歓喜するとともに、高段位取得にチャレンジする気運が高まっていることは、大変喜ばしく思います。

当連盟の活動ですが、会長で



令和7年11月 審判講習会

ある安部壽和、理事長である横内良道、副理事長である中原泉を中心として、定例稽古会を防衛省で実施しております。現役の自衛隊員は、災害派遣や長期の演習、訓練等で参加できない場合もありますが、若手からOB・OGまでが集い、「基本」を重視した稽古を実施しております。また、日頃会えない他部隊の隊員と稽古することにより、緊張感のある稽古が実施でき、存じ上げないお相手と稽古することが、いかに重要であるかを痛感している次第です。

また、コロナ禍で中止を余儀なくされていた当連盟主催の青少年剣道大会を令和5年度から再開いたしました。青少年大会は、各駐屯地・基地において、剣道を学ぶ青少年少女剣士を集めて平成2年から開催しているものです。今では、警察署や全国大会で活躍する団体等の参加もいただき、令和6年度は約600名の参加をいただき、活気溢れる大会となっております。



令和7年11月 関東自衛隊稽古会

大会を実施するにあたっては、「審判が良くなれば試合が良くなる。試合が良くなれば剣道が良くなる」との考えの下、毎年、六段以上の加盟員を対象とした審判講習を実施しております。昨年11月にも、審判時の姿勢、所作、有効打突、反則の見極めなど、細部にわたる指導が行われました。

今後とも、剣道の普及発展のため、微力ながら尽力してまいりますので、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

大会案内

第74回 東京都剣道大会

日時：令和8年2月28日(土) 午前9時30分開会

場所：東京武道館

主催：一般財団法人東京都剣道連盟

後援：公益財団法人全日本剣道連盟、東京都(申請中)、
読売新聞社(申請中)

本連盟加盟団体から選抜された精鋭7選手のチームによってトーナメント戦を行い、優勝・準優勝・3位(2チーム)・敢闘賞4チームを表彰します。

第21回 東京都少年剣道大会

日時：令和8年3月21日(土) 午前9時30分開会

場所：東京武道館

主催：一般財団法人東京都剣道連盟

次代を担う少年剣士が「木刀による基本技稽古法」と「一本勝負」を競い合います。

東京武道館

東京剣連だより

第99号(令和八年一月一日発行)

発行人 千葉 胤道

発行所 一般財団法人東京都剣道連盟

〒10510004

東京都港区新橋四ノ二十四ノ二

TEL 〇三五四〇五一一六六

FAX 〇三五四〇五三三八〇

URL <https://www.tokyo-kendo.or.jp>

編集長 西山 貢

編集委員 大岡澄夫・目黒秀治・柳 徹

藤野 靖

印刷 株式会社マルチプレス

本誌の掲載記事の無断掲載および複写を禁ずる

連盟案内

東京都剣道連盟の
ホームページ(HP)を
ぜひ、ご覧下さい

フレッシュな情報を提供しております

URL <https://www.tokyo-kendo.or.jp>

東京剣連・東剣連でも見ることができます

